

スポーツの競技人口とメディアの関係性

マス・コミュニケーションゼミナール 1316039 玉川 大樹

1. 研究動機・研究目的

私は、幼いころからスポーツに触れてきて、大学ではスポーツについて学ぶ機会があった。また、私は日常的にマンガを読むという趣味がある。このことから、日本で多くの人々に愛され、読まれている「マンガ」というものと「スポーツ」はどのような関係性があるのか調査したいと考え研究を開始した。

2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されることを受け、日本においてスポーツに対する関心や興味は、より一層増すことが予想される。本研究では、スポーツマンガとスポーツの競技者数や歴史などの現実のスポーツ人気とが、密接な関係性があると仮定し、その関係性はどのようなものがあるのかを明らかにすることが目的である。

2. 研究方法

本研究では、「野球」「サッカー」「テニス」「バレーボール」「ラグビー」「バスケットボール」の6つの競技を対象に文献調査を進めた。理由としては、全てのスポーツを検証しようとする、膨大な量になってしまうからである。

- 沿革や年表など文献調査から得た日本に関するスポーツの主な「歴史」（略歴に表す）
 - 6つの競技の「競技者数」（高体連[平成15年以前の集計は、当時のデータ検証が不十分で統計資料として公開できる状態ではないため平成15年以降を対象]や高野連などのデータを基に、主に高校年代の競技者数とした）
 - 「テレビスポーツデータ年鑑」から得た、6つの競技のテレビでの「報道量」（報道量は、ニュース・情報ワイドショー・スポーツ情報番組（スポーツ中継番組、中継ダイジェスト番組は対象外）の1年間での合計時間をグラフに表す）
 - 6つの競技のマンガの掲載誌、掲載年、掲載回数、掲載形式を統計した「掲載数」（インターネットを用い、「競技名+マンガ」を検索しヒットしたマンガを対象とした）
- 以上の4つの項目についてデータをグラフ化した。

3. 主な結果と考察

6つのスポーツは、主にそれぞれの競技で日本代表や選手の活躍があると、報道量や競技者数に変化を与える結果となった。同様にマンガの掲載数も増加する関係性があった。

野球では、『巨人の星』や『ドカベン』が連載された年に、競技者数、マンガの掲載数が増加する結果となった。報道量は、ワールドベースボールクラシックの開催される年に増加する傾向があった。

サッカーでは、『キャプテン翼』の影響を受け、競技者数と掲載数が増加した。また、Jリーグの開幕も影響を与えた。報道量はワールドカップが開催される年が著しく増加した。女子に関しては、近年のなでしこジャパンの活躍もあり、これから競技者数や掲載数に影響が

あるのではないかと考えられる。

テニスでは、『テニスの王子様』の影響で男子女子ともに競技者数が増加する結果となった。報道量は、錦織圭選手の活躍に影響され増加し、2018年には大坂なおみ選手の大記録によって過去一番の報道量を記録した。なので、これからは大坂選手の活躍次第で、報道量に変化をもたらすと予想される。掲載数は、『エースをねらえ』の影響で女性向け漫画の割合が多いことが1970年～1990年頃に現れた。

バレーボールでは、Vリーグ開幕と女子日本代表の世界選手権とロンドンオリンピックの連続銅メダルが競技者数を増加させた。報道量は、主にオリンピックイヤーに増加する傾向があることが分かった。マンガの掲載数は、Vリーグの開幕が影響を与えていた。また、昔から女性向けのマンガの割合が多い競技であったが、2000年代以降は少年・青年向けのマンガも増えていることから、2019年の男子バレーボールの活躍の影響を受け、今後少年・青年向けのマンガが増えるのではないかと予想される。

ラグビーでは、2015年の南アフリカ戦の勝利が圧倒的な報道量の増加を見せる影響を与えた。2019年の報道量は、ワールドカップ日本大会での日本代表のベスト8入りの活躍により最も高い数値になると予想される。マンガの掲載数に関しては、1984年から放送された、山下真司主演のドラマ『スクールウォーズ』の影響で1980年代後半に女性向けマンガの割合が増加した。今後は、ワールドカップ2大会の影響でラグビーの知名度、関心がさらに増し、競技者数、報道量、掲載数の増加に繋がるのではと予想される。

バスケットボールでは、報道量に大きな変化は見られなかったが、競技者数とマンガの掲載数は大きな変化が見られた。『SLUM DUNK』の連載とBリーグ開幕の2つの出来事が競技者数とマンガの掲載数に大きな影響を与えた。特に『SLUM DUNK』は、バスケットボールという球技を日本に広めた一番の要因となり、日本のスポーツ界に影響を与えたマンガの代表となった。『SLUM DUNK』連載後にバスケットボールマンガの掲載数自体が伸びたことも、特徴である。バスケットボールマンガの掲載数には、男子バスケットボール界で出来事が起きると、少年・青年マンガの掲載数が増加し、女子バスケットボール界で出来事が起きると、女性マンガの掲載数が増加するという、関係が現れた。

4. 結論

スポーツ界の中で、日本代表や選手の活躍があると、報道量や競技者数に変化を与える結果となった。同様にマンガの掲載数も増加する関係性があった。そこから、スポーツ界の成績などに応じて、今後どのように影響を与えるかを予想することができた。例外で、スポーツマンガの掲載の影響でスポーツの競技者数に影響を与えるマンガ(SLUM DUNK等)も存在した。よって、今後マイナースポーツでもマンガのヒットの影響を受け、競技者数が増加するスポーツも現れる可能性がある。

5. 卒業論文の執筆を終えて

この論文を書くにあたり、常に厳しい言葉で支えてくださった神原先生、互いに助け合って何とか卒業論文を終わらせた4年生の同士、本当にありがとうございました。何とか無事に終わらせることができてホッとしました。社会人になる前に、とても良い経験をすることができました。